保育　実践事例２

互いの考えを伝え合いながら，協同的な遊びをつくっていく子どもたち

― 年長５歳児「めざせ！みんなのつきぐみまつり」の実践から ―

１　活動のねらい

○ 互いに考えを出し合い，協力しながら遊ぼうとする。
○ 遊びをおもしろくするために，どうしたらよいか試行錯誤を繰り返す。
○ 相手の気持ちや立場を考えて行動しようとする。

２　保育の構想

⑴ 子どものとらえについて

本学級の子どもたちは，好奇心が旺盛でいろいろなことに興味・関心をもっている。年長になってからは特に園庭で体を動かすことや，段ボールや空き箱などの廃材を使っていろいろなものを作ること，お店屋さんごっこなどをして遊ぶことが多かった。その中でも段ボールを使った遊びでは，大きい段ボールを一緒に運ぶ，段ボールを切るときに動かないように段ボールを持つなど，友だちと力を合わせ試行錯誤しながら継続し遊ぶ姿が見られた。

また，お店屋さんごっこの遊びでは，多くの友だちとかかわる姿が見られた。作った色水ジュースやアイスクリームの味見やお金の受け渡しなど，同じ場にいる友だちや教師と店員や客という立場でのやりとりをすることを楽しんでいた。

８期（９月中旬～10月下旬）になると，小集団で遊ぶ子どもたちが増えてきた。段ボールを使ったお化け屋敷の通り道や，脅かすための仕掛け，おばけの衣装を作るなど，同じめあてに向かって友だちと一緒に考えを出し合いながら遊びを進めていた。また受付にいてお客さんを案内する人やお化けになって脅かす人など，自分たちで役割分担をしてお客さんを楽しませようといろいろと考えて工夫していた。お化け屋敷の壁が倒れてしまったときには，どうすれば倒れにくくなるのかを考え，ガムテープの種類や貼り方などをいろいろと試しながら，最適な方法を見付け出そうとする姿も見られた。他方で，子どもたちの中には，友だちとうまく関わることのできにくい子もいる。お互いに自分の思いを主張して言い争いになることや，怒った口調で友だちに向かっていくため遊びが中断することもあった。しかし，友だちと関わりながら遊びたいという気持ちはあるため，相手を受け入れようとしたり，やさしく言い直したりする姿も少しずつ見られるようになってきた。

学級の伝え合う場では，自分の遊びの面白さや発見したことなどを友だちに伝え，また，友だちの話を聞いて自分の考えを振り返るようになってきている。運動会の競技についてどんなことをしたいかと尋ねた際には，全員が自分のしたいことを見付け，自分の思いを言葉で伝えることができた。中にはその内容やルールについて具体的に詳しく説明する子もいた。

⑵ こどもまつりに向けての活動と保育で考える思考力・判断力・表現力の育成との関わりについて

本園では，思考力・判断力・表現力を以下のようにとらえている。

○ 思考力・判断力…自ら興味をもって環境に関わり，自分の願いを実現するためにどうすればよいか考えたり，選択したりする力。
○ 表現力…感じたことや考えたことを自分なりの方法で表したり言葉で伝え合ったりする表現力。

子どもたちは，８期で教師の力を借りながら，学級や学年の仲間と共に，同じめあてに向かい，運動会をやり遂げる経験をした。８期に続く９期前半（11月初旬～12月下旬）は，子どもたちが，自分たちの力で協同的な遊びを創っていく時期であるととらえている。その中でも特に，「こどもまつり」は，遊びを創り，思考力・判断力・表現力を高めるのによい機会である。

子どもたちは，「こどもまつり」を昨年度も経験しており，年長児の姿を見て，「年長さんみたいにしたい」という願いをもっていた。また，やりたいことはあったが，うまくいかず，今年度は成功させたいという願いをもっている子どももいた。これらの願いを大切にし，子どもが願いを実現しようとする中で，試行錯誤を繰り返す場と時間を保証する。その中で，つき組みんなのお神輿を作るには，どのようにすればよいか，また，それぞれのお店を出す場所やお店にどのような品物を置くか，お客さんに来てもらうためにはどうすればよいかなど，考えを伝え合うことで，思考力・判断力・表現力が高まっていくと考えた。

⑶ 思考力・判断力・表現力の育成に関する学び合う場面の構想について

「こどもまつり」は，それまでの遊びや経験とつなげやすい活動である。まず，一人一人の子どもに学びが生まれ，伝えたい，知りたいという思いが生まれるようにするため，次のような点に留意したいと考えた。

○「こどもまつり」の提案をするときには，子どもたちが自分たちなりのお祭りのイメージやお祭りに向かう気持ちをもてるように，お祭りに関わりの深い絵本やお祭りのはっぴ、太鼓などを保育室に用意する。「どんなお祭りにしたいのか」をみんなで話し合う場を設定したり，お祭りに関する絵本の読み聞かせを行ったりして，教師も一緒に遊びを考える。その際，子どもたちが，自分のしたい遊びを楽しむことができるように，子どもの気持ちを大切にする。

○子どもたちが，自分の願いを実現すべく工夫できるように，多様な廃材を用意する。特に，子どもたちが共通して興味をもっている段ボールは，大きさや材質の異なるものを用意する。段ボールは組み立て方や組み合わせ方を工夫してきたため，さらに工夫が広がると考える。また，子どもたちのニーズに合わせた新しい素材を適宜出していく。はたらきかけとしては，必要に応じて子どもの気付きを広めたり，過去の経験を思い出せるような声かけをしたりすることで，子どもたちがそれぞれの気付きや経験したことをいかして，友だちと一緒によりよいものを求めていく姿につながっていくと考える。

さらに，「こどもまつり」に向けての活動では，よりよいものをつくろうとするときやうまくいく方法を見つけ出そうとするときに，話し合いが必要となる。互いのイメージや考えを伝え合うことができるよう，次のような伝え合う場面を大切にしていきたいと考えた。

○子どもたちが友だちと協力し，どうすればうまくいくか考えを出し合いながら遊ぶ場面では，子どものよい考えや姿を認め，子どもが自信をもって遊べるようにする。そのことを通して，さらに遊びが充実し，自分たちで考え工夫したり，考えを伝え合ったりして自分の願いを実現できると考える。

○「どんなおまつりにしたいか」について話し合う場面では，子どもがめあてを共有できるようにする。そのうえで,活動の中で生まれる具体的な願いについて学級のみんなで考える場を設定する。「たくさんのお客さんに来てほしい」など共通の願いや友だちがうまくいかずに困っていることについて話し合う。それぞれの子どもが自分の考えや思いを伝え合い，友だちの考えやよさに気付き自分の遊びに取り入れたり，意見が合わないときにどうすればよいか考えたりすることで，子どもたちがより深く考えることができる。

このように，自分でみつけた遊びの中での子どもの気付きや姿を，伝え合う場で取り上げたり，気付きをこどもまつりに向かう遊びの中にいかせるような環境を構成したりして，思考力･判断力･表現力の育ちにつなげていきたいと願った。

3　予想される幼児の主な活動の展開

以下に８期前半で見られた主な子どもの姿と，「こどもまつり」に向けて予想される主な遊びの展開を示す。（☆）は，いかす姿。

８期前半（９月中旬～９月下旬）

・ごっこ遊びの設定や役割分担など，自分の思いや考えを出しながら，イメージを共有して遊ぶ。
・友だちを応援するための旗やポンポンを作って応援する。
・チームやコース，ルールなどを数人の友だちと一緒に考えてリレーや綱引きをする。
・うんていや鉄棒，縄跳びなど，自分のめあてをもって，何度も繰り返し挑戦したり，少し難しいことにも気持ちを向けたりする。
・段ボールのつけ方や床に立てる方法を考え，ガムテープの種類や貼り方などをいろいろと試す。
・段ボールをいくつも組み合わせて，お化け屋敷を作り，友だちを招待し、驚かすための工夫をしながら遊ぶ。
・バッタやコオロギなど，園庭でいろいろな生き物を見つけて捕まえたり，生き物が住みやすい環境を作って飼育したりする。
・なかなか捕まえることのできない生き物をどうやって捕まえるか，友だちと考えを出し合う。
・園庭の草花を使って，友だちと一緒にごちそう作りをしたり，色水や飾りを作ったりして遊ぶ。

チャレンジパートのうんどうかい

８期後半（10月初旬～10月下旬）

10月初旬～10月中旬

ごっこ遊び
・多くの友だちを誘いながら，お化け屋敷ごっこや家族ごっこなどをする。
・チケットやチラシを作る，呼び込みをするなど，お客さんに来てもらうための工夫をする。

制作する遊び
・友だちの作っているものを見て，工夫しているところを見付けて取り入れる。
・友だちと一緒に入れるように大きさを考えて秘密基地や家などを作る。

自然と関わる遊び
・珍しい木の実やきれいな落ち葉を友だちと見せ合ったり，一緒に探したりする。
・順番に水を流す，トンネルを両側から掘るなど，友だちと協力しながら，砂で山や川を作る。

体を動かす遊び
・複数の友だちと一緒に自分たちなりのルールを考えながら，サッカーやおに遊びをする。

10月中旬～10月下旬

ごっこ遊び
・友だちとイメージを共有しながら，遊びがより面白くなるように遊ぶ場所を考えたり，必要なものを作ったりする。（☆）
・落ち葉や木の実をお金にするなど，自然物を遊びに取り入れながらお店屋さんごっこをする。

制作する遊び
・今までよりも，さらに本物らしく作ろうと考えて，材料をいろいろと選びながら作る。
・自分の作ったものと友だちの作ったものを組み合わせて新しいものを作る。

自然と関わる遊び
・自分の好きな色や形にこだわって，木の実や落ち葉を集めたり，そこからイメージしたものを作ったりする。
・砂場に自分たちがイメージしたものを作ろうと，友だちと協力する。

こどもまつりの提案

９期前半（11月初旬～12月中旬）

めざせ！みんなのつきぐみまつり

11月初旬～11月中旬

ごっこ遊び・体を動かす遊び
・お祭りをイメージして，友だちと考えを出し合いながらイメージを広げ，複数の子どもが一緒に遊ぶ。（☆）
・自分で作った楽器や周りにある音の出るものを鳴らして遊ぶ。
・音楽に合わせて体を動かしたり，友だちと一緒に動きを考えて踊ったりする。
・手作りのお神輿を担いだり，太鼓を叩く真似をしたりする。
・それぞれがやっている遊びを行き来しながら，店員や客になってやりとりを楽しむ。

制作する遊び・自然と関わる遊び
・段ボールや廃材を使って，友だちと一緒にお神輿を作る。
・自分のイメージに合うように材料を選びながら，自分が納得のいくまで作ったり，友だちに相談して考えを取り入れながら作ったりする。
・ドングリゴマを作ったり自分でコースを作ってドングリを転がして遊んだりする。
・もみじや木の実を使って飾りやお面を作り，身につけて遊ぶ。
・砂場で友だちと協力して作ったものを大切にして，みんなに見せる。

11月下旬

こどもまつりに向けての遊び
・お店の飾り付けやみんなで担げるようなお神輿の棒のつけ方など，どうやったらうまくいくかを友だちと話し合う。（☆）
・ドングリコースを手分けして作ることやお店での役を決めるなど，友だちと協力し，互いの考えを伝え合いながら遊ぶ。（☆）
・より本物に近づけようと素材や盛り付け方など，いろいろと試しながら，店に並べる品物を作る。
・お祭りにたくさん人が来るように，看板の大きさやつける場所，店の飾り方などを工夫する。
・同じ遊びをしている友だちと一緒にお揃いの衣装を作り，身に着ける。
・大きな声で呼び込みをしたり，年少さんを誘いに行ったりする。
・うまくいかなくて困っている友だちを気にかけたり，忙しそうなお店を手伝いに行ったりする。

こどもまつり

4　保育の実際

「こどもまつり」の提案をする前から，子どもたちは「自分でみつけた遊び」の中で，お祭りのイメージをもって遊んでいた。10月中旬から「つき組さんみんなでお祭りしたら，楽しいんじゃない？」と，声が上がっていた。「つきぐみまつり」のポスターを作って廊下に掲示したり，お祭りでしたいことを考えて紙に書いたりする姿も見られた。以下は，イメージをもち，その後「つきぐみまつり」を創っていく子どもの姿である。

(1)「段ボールで階段を作りたい」というこだわりをもち，試行錯誤を繰り返す子どもたち

子どもたちは「段ボールで階段を作りたい」という願いをもち11月13日，園児Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄが「階段を作りたいけど，どうやって作ったらいいのかな」と考えていた。

園児Ａ：段ボールだけだと，すぐにぺちゃんこになっちゃうよ。
園児Ｂ：じゃ，何枚も重ねる？
園児Ａ：まだ柔らかいよ，硬くしなくちゃだめだよ。
園児Ｃ：前に段ボールでお城作ったときは，四角のままで崩れなかったよ。
園児Ｄ：そうだったね，あのときはたくさんの段ボールでかべ作ったよね。
園児Ａ：そうだ，Ｅくんに聞いてみようよ。こういうの作るの上手だもん。
園児Ｄ：階段作りたいけど，何で作ればいいの？
園児Ｅ：厚紙は？それか段ボール何枚も重ねたら？
園児Ｃ：四段の階段が作りたいんだけど・・・それじゃ無理だよ。
園児Ｅ：硬いの中に入れたら？

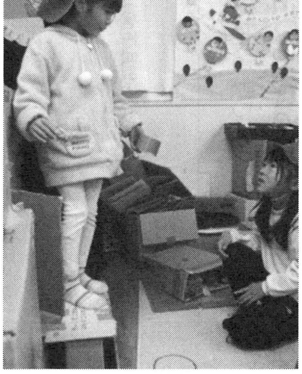
園児Ｅが「硬いの中に入れたら？」と提案し，みんなで考えるが，なかなか良い方法が思い付かない様子だった。そこで，学級のみんなで話し合う場をもつことにした。

園児Ｃ：段ボールで四段の階段ってどうやって作ったらいいの？
園児Ｆ：積み木使ったら？
園児Ｃ：積み木をどうやって使うの。
園児Ｇ：積み木の数を増やしてずらし重ねていったら出来るんじゃない？
園児Ｈ：硬い段ボールじゃないと出来んよ。
園児Ｅ：硬くすればいいよ。
園児Ｄ：どうやって？
園児Ｅ：やっぱり積み木入れたら？それで硬くしたら。
園児Ａ：それいいね。
11月14日，子どもたちは，遊戯室から積み木を運んでくる。
園児Ａ：積み木入れるって言ってたよね。
園児Ｃ：そうだね。
園児Ｄ：段ボールでトンネルみたいなの作って、中に積み木を入れて・・・。
園児Ａ：出来た！のってみよう、大人がのっても壊れないのがいいから，先生のってみて。
園児Ｃ：大丈夫だね，じゃあ二段目作ろう。

子どもたちは，学級での話し合いで出た考えを取り入れながら，階段を作った。どんなふうに積み木を重ねていけばよいか，段ボールと積み木の幅をどうやって合わせるかなど，試行錯誤を繰り返し，友だちと協力しながら，数日かかって四段の階段が出来上がった。

＜考察＞

「段ボールで階段を作りたい」という共通のめあてをもつことで，一人一人の子どもが過去の経験を思い出したり，友だちの考えを取り入れたりしながらより深く考えていた。園児Ａが園児Ｅに階段を作る方法を尋ねようと思ったのは，日頃から友だちのことや友だちの遊んでいることに気持ちを向けていることの表れだと考える。また，学級のみんなで話し合ったときには，少人数で話し合いをしたときよりも，多くの考えが出てきた。友だちが困っているときに，学級のみんなが一生懸命に考え，次の日に階段作りを手伝う姿も見られた。



このように，学級のみんなが一生懸命に考え，手伝ったのは，「つきぐみまつり」の遊びだと子どもたちの意識の中にあったからだと思う。そして，積み木を入れたら硬くなるという気付きを遊びの中で試したり，それをもとにさらに考えを深めたりしながら遊ぶ子どもたちの姿も見られた。このことから，自分でみつけた遊びで出てきた困ったことを学級での伝え合う場で取り上げたことで，その後，子どもたちが互いの考えを伝え合いながら遊びを深めていくことにつながったと考える。

⑵「つき組みんなのお神輿を作りたい」という願いをもち，お神輿を担ぐ棒のつけ方を考え，試行錯誤を繰り返す子どもたち

11月７日，「つきぐみまつりのお神輿だから，青色にしよう。」と園児Ｉの声かけで，数人の子どもが集まってお神輿を作り始めた。

園児Ｇ：お神輿作って，みんなでやりたいね。
園児Ｈ：お神輿には，こーんな屋根がついてるよ，これにもつところ付けたら？
園児Ｇ：あと，持つ棒もついてないと、肩にのせてやったことある。
園児Ｉ：わっしょい，わっしょいって歩くんだよね。お祭りで，お神輿やったことあるよ。
園児Ｇ：そうそう，肩に棒のっけて歩くんだよね。
園児Ｉ：つき組みんなのお神輿になるように，お神輿の屋根につき組みんなの手形付けようよ。
園児Ｅ：それ，いいかもね，やろう。
園児Ｉ：あんまり重くなると歩けなくなるから，新聞紙で飾り作ろう。
園児Ｂ：それよりもティッシュの方が軽くていいんじゃない？

中略

　みんなで作ったお神輿を担いで歩いていると，途中で棒が外れた。
園児Ｅ：あーどうしよ・・・棒が外れちゃった。
園児Ｉ：どうやったら外れなくなるんだろう。
園児Ｅ：テープで何回も貼ったら？
園児Ｇ：それじゃあ，またすぐにとれちゃうかもよ。
園児Ｉ：やってみないと分かんないよ。
　子どもたちは，テープを何枚も重ねて貼り，再度歩き始めるが，また棒が外れてしまう。
園児Ｅ：だめかぁ・・・どうする？
園児Ｉ：テープ貼っただけじゃまたとれちゃうよね。
園児Ｇ：じゃあ，この丸くなってる棒を潰して，真っすぐにしたらいいんじゃない？
園児Ｅ：やってみよう。
　園児Ｉがお神輿に当たる部分を足で踏んで、少し潰してみた。
園児Ｆ：なんかくっつきやすくなった気がする。
園児Ｇ：ほんとだー，テープを縦と横に貼ったらもっとよくくっつくよ。
　この後も，棒が外れる度に付け直し，みんなで担げるようにしていった。

＜考察＞

お神輿をつき組のクラスカラーの青色にしたことやお神輿の屋根につき組全員の手形をつけたことなど「みんなのつきぐみまつり」への思いが受け取れる。また，園児Ｉと園児Ｇは，お神輿を担ぐ棒を付ける際，自分の経験を思い出し，発言している。教師は，数人の子どもたちから自然発生的に出た「つき組みんなでお神輿がしたい」という子どもの願いを学級全体に広げていくことで，学級みんなで向かっていける活動としていきたいと考えた。そこで，園児Ｉたちがお神輿を作っていく姿を学級全体に紹介した。

つき組のみんなでお神輿をやりたいという強い願いがあったらこそ，子どもたちは，棒が外れても諦めずに，棒が外れない良い方法はないかと友だちと考えを伝えながら，試行錯誤を繰り返したのではないかと考える。子どもの思いの強さが集中度や遊びの継続につながり，様々な気付きをもとに考えて試す中で，子どもたちはより深く考えるようになった。

⑶ お客さんにたくさん来てもらうためには，どうすればよいかを考え，みんなと考えを伝え合う子どもたち

子どもたちは，「つきぐみまつり」に向かって，森のれすとらんや森のゆうびんやさんなどの遊

びを楽しむ姿が見られていた。11月中旬，「お客さんがあんまり来なくてつまんない，もっと来れば楽しいのに。」とお客さんを求める姿も見られるようになった。

11月16日，お客さんにたくさん来てもらうために，どうすればよいかということを話し合った。そこで，お客さんがごちそうを食べる机といすを用意していた園児Ｊのことを子どもたちに伝えた。すると，「お店をきれいにする，片付けるってこと。」「商品をもっとたくさん作る。」「やり方が分からない人がいたら，見本を見せてあげたりやさしく教えてあげる。」「年少さんがきたら，喜ぶようなものを考えて作っておいたらいいと思う。」など，子どもたちから，お客さんがたくさん来るための考えが次々に出てきた。子どもたちは，「そうだね。」と言ったりうなずいたりしながら聞いていた。

その中で，「リボン作って商品にする。」と園児Ｋが言ったときには，「女の子のばっかりでつまらん。」と園児Ｈが言った。その言葉を聞いて，園児Ｋはさらに考えて「それじゃあ，女の子はリボンとか，男の子は手裏剣がいいかも。」とみんなに自分の考えを伝えた。「ごちそう作ったらみんなが来れるよ。」と園児Ｆが言い，「今日のとれたてわかめで料理作って誰でも食べ放題にしよ。」と，園児Ｌも自分のお店にお客さんが来るための考えを思いついた。さらに，「バイキングにしたら？何でも好きなものが食べれるってこと。」などと，子どもたちは友だちの考えをヒントにして自分の遊びについて考えたことなどを伝え合う姿が見られた。

11月19日，園児Ｆと園児Ｌの森のれすとらんでは，それまで違う遊びをしていた園児Ｅと園児Ｇも仲間に入り，お客さんが自分で欲しいものをお皿に取り，座って食べるというバイキングのやり方を取り入れながら遊んでいた。園児Ｋは，女の子用のリボンと男の子用の手裏剣を作っていた。

＜考察＞

一人一人の子どもが自分の考えや思いを伝え合い，友だちの考えのよさに気付き，受け入れたり異なる考えが出たときにはどうするか考えたりすることで，子どもたちがより深く考えることができたのではないかと考える。園児Ｋの発言や園児Ｈの気付きがあったことで，さらに子どもたちは考え，いろいろな考えが出てくるきっかけとなった。そして，つき組のみんなが「お客さんにたくさん来てほしい」という願いをもっていたからこそ，子どもたちが一生懸命に考えたり，これまでしてきたことを思い出したり，気付いたことを伝え合ったりする姿が表れたのだと考える。

5　成果と課題

お神輿や段ボールの階段の事例のように，気付きや過去の経験をいかす姿は，子どもが「～したい」という願いをしっかりともっているときに多く表れることが分かった。子どもたちが「つきぐみまつり」をしたいという共通の願いをもつことで，より多くの子どもたちが友だちの困っていることを自分のこととして受け取り，一緒に遊びをつくっていった。共通の願いをもつことが友だちの遊びにも気持ちを向けることにつながると考える。また，友だちの遊びに気持ちを向けることができるよう，言葉をかけたり，伝え合う場で取り上げたりすることで，子どもたちみんなが，共通の願いをより強くもつことになった。

個々の子どもたちは，遊びが面白くなるよう工夫をし，問題解決のための最適な方法を見つけ出そうとする意欲もある。友だちと協力すると，上手くいくということも分かっている。しかし，伝え合う場では，それぞれの子どもが主張しすぎて，互いの思いが上手く伝わらないこともある。教師が整理し，伝え合いが上手くいく経験を積み重ねられるようにしていくことが今後の課題である。

（文責　福井　智子）